

令和 8 年 3 月 31 日

萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会 令和 7 年度 事業報告

会長 山本 達人

「萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会（以下、協議会）」は、萩市医師会が受託した在宅医療提供体制充実支援事業と、萩市・阿武町が全面実施している在宅医療・介護連携推進事業の背景や目的が重なり合っていたことから、合理的で効率的、効果的な取組を推進するため、平成 30 年 12 月に萩市医師会・萩市・阿武町の 3 者合同で設置しました。医療・介護の連携推進によって、萩圏域の地域包括ケアシステムを構築しようとした協議会は、障がい福祉関係者にも広く参画していただいたことによって、同システムを深化・推進し、地域共生社会の実現を目指すこととしました。

令和 6 年 4 月に第 9 期介護保険事業（支援）計画と同時にスタートした第 8 次山口県保健医療計画においては「在宅医療」の項で、協議会が「在宅医療に必要な連携を担う拠点（以下、連携拠点）」として記載されています。他圏域は市、町、医師会がそれぞれ連携拠点として取組を進める中、萩圏域においては在宅医療に必要な連携を担う構成員が全て協議会に参画しているため、協議会を連携拠点と位置付けたのが特徴です。

2025（令和 7）年に向けて、病床の機能分化・連携を進めてきた地域医療構想は、85 歳以上の増加や人口減少がさらに進む 2040（令和 22）年とその先を見据えて、新たな構想を医療計画の上位概念として位置付け、外来・在宅、介護連携等も構想の対象とし、地域完結型の医療・介護提供体制の構築を目指すことになりました。協議会もさらなる役割が期待されることになると思われます。今後ともお互いに切磋琢磨し、協議会活動を発展させていく所存ですので、皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。



萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会 （愛称:ケアネットはぎ）

～誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることのできる萩圏域を目指して～

萩市医師会と萩市、阿武町は 3 者合同で「萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会」を平成 30 年 12 月に設置。圏域の医療・介護・福祉・行政関係者等の参画を得て、地域を支える基盤となる「人と人とのつながり」を大切に、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることのできる萩圏域を目指して活動を行っています。

I. 情報提供

- R07.04.28 山口県萩健康福祉センターから「感染症対策の施設訪問研修会等のお知らせ」
- R07.06.02 「萩圏域 医療・介護・福祉資源ガイドブック 2022」情報更新（ハローサポートセンター新設、在宅介護支援センターかがやき新設など）のお知らせ
- R07.06.24 萩市民病院・都志見病院・山口県萩環境保健所主催の「多職種連携感染症対策研修会」（8月9日開催）のお知らせ
- R07.08.01 「萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会 令和6年度事業報告」を萩市ホームページへ掲載のお知らせ
- R07.08.21 萩市主催「令和7年度介護予防市民講座（快眠脳心体づくり講座）」（9月28日開催）のお知らせ
- R07.09.03 「萩市民病院 市民公開講座 未来を支える人工関節の技術革新」（10月11日開催）のお知らせ
- R07.09.22 令和7年度萩圏域認知症疾患医療センター研修会「老いと病をささえるヒント」（11月22日開催）のお知らせ
- R07.10.01 「萩圏域 医療・介護・福祉資源ガイドブック 2022」情報更新（居宅介護支援事業所あゆみ新設など）のお知らせ
- R07.10.03 「健康座談会『また今度』が命取りに 健診は未来の自分へのプレゼント」（10月10日開催）と「多職種連携セミナー 食から広げる心疾患予防」（11月1日開催）のお知らせ
- R07.10.20 「第5回 中国ブロック在宅医療推進フォーラム」（11月30日開催）のお知らせ（本フォーラムの企画には当協議会の綿貫副会長が参画）
- R07.11.13 令和7年度萩圏域認知症疾患医療センター研修会「老いと病をささえるヒント」（11月22日開催）のお知らせ（9月22日送付分を再送）
- R07.11.26 第12回成育在宅医療推進研修会（12月11日オンライン開催）のお知らせ（医療的ケア児支援センターの取組みと課題 / 「なおす」から「はぐくむ」へお口のはなし）
- R08.01.06 「萩圏域 医療・介護・福祉資源ガイドブック 2022」の情報更新（新たに電子処方箋対応など薬局機能を追加、特別養護老人ホーム紫福園の閉鎖による関連事業廃止など）のお知らせ
- R08.01.19 令和7年度山口県認知症疾患医療センター合同研修会（2月8日オンライン開催）のお知らせ
- R08.01.26 令和7年度結核臨床研修会（2月13日オンライン開催）のお知らせ
- R08.02.13 萩市・阿武町住民公開講座「みんなで考える在宅医療・介護（R6.11.30開催）」動画配信のお知らせ

<https://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/96/h67646.html>

R6.11.30開催 萩市・阿武町住民公開講座『みんなで考える在宅医療・介護』動画配信のお知らせ

印刷用ページを表示する 掲載日：2026年1月30日更新

❖ 劇団ケアネットはぎ 初回公演『たかあきおじいちゃんのやっぱり家がええのお』(31分)

みなさんは医療や介護が必要になっても、過ごしたい場所で療養できることを知っていますか？

医療・介護・福祉の専門職が連携しながら、在宅療養の環境を作るお手伝いができます。「誰も困ることなく、無理なくできる在宅医療って何？」をテーマに、萩圏域の医療・介護・福祉専門職が寸劇でわかりやすくお伝えします。

劇団「ケアネットはぎ」の旗揚げ公演を是非、ご覧ください！



❖ 在宅療養で行う医療・介護のお仕事紹介！

在宅医療・介護・福祉を支える専門職はたくさんいます。

今回は一部ではありますが、萩圏域の専門職の皆さんに「どんなことができるの？」という皆さんの疑問にお答えするべく、お仕事を紹介していただきました！



萩市・阿武町住民公開講座「みんなで考える在宅医療・介護」の振り返りについて 《令和7年12月17日の研修・啓発部会 議事録から抜粋》

【アンケート結果について】

◇住民公開講座「みんなで考える在宅医療・介護」は来場者 163 名、関係者 37 名の総勢 200 名が参加。住民公開講座の概要、参加者アンケート、関係者アンケートの結果は別添のとおり。また、開催当日の内容をもとに撮影、制作した動画については今回、部会開催前に視聴していただき、アンケートに回答をお願いした。動画視聴後アンケート結果は別添のとおり。

◇参加者アンケートのうち、「劇団ケアネットはぎ初回公演」については満足 82.4%、やや満足 13.7%をあわせて 96.1%と高い評価。「在宅医療・介護のお仕事紹介」について

は満足 67.9%、やや満足 24.4%をあわせて 92.3%と同じく高い評価。「会場まるごとディスカッション」については満足 45.8%、やや満足 32.1%をあわせて 77.9%という評価だった。

◇「あなた自身がこれから医療や介護が必要になったとき、どこで暮らしたいですか？」という問いに対しては、自宅 61.1%、子の家 1.5%、介護施設 19.1%をあわせて 81.7%という結果だった。

◇動画視聴後アンケートには 13 名が回答。「動画を最後まで視聴しましたか？」という設問については、最後まで視聴したが 11 名、途中まで見た 2 名。「動画の長さはどうでしたか？」については、ちょうどよい 5 名、やや長い 6 名、長い 2 名。「総合的な満足度を教えてください」については、満足 10 名、やや満足 2 名、やや不満足 1 名という評価だった。

【住民公開講座の振り返りやアンケート結果に基づく意見・感想等】

◇研修会や公開講座を通して口頭で仕事を伝えても、住民の皆さんになかなか伝わらない。寸劇したらどうかと提案したばかりに主演することになった。出演後は地域の方々からも声をかけていただいた。

◇お仕事紹介が長いと感じた。各職種の紹介内容をチャプターに分けてはどうか。

◇寸劇はとても楽しませてもらった。自身が参加したお仕事紹介を通じて、皆さんと顔の見える関係を築くことができ、仲良くなれた。

◇寸劇はとても楽しかった。お仕事紹介はボリュームがかなりあると感じた。短いバージョンがあってもよいかもしれない。

◇寸劇に出演させてもらった。ワンチームで、とてもよい雰囲気できた。

◇寸劇が終わり、今回の監督をされた先生が泣いておられた。みんなで力をあわせて、やり切れてよかった。日に日に一体感、団結力がアップした。お仕事紹介は 2 分といわれたので、それを守って時間内で収めたが、もっと自由にやってよかったのかなと感じた。全体として時間がまちまちだった。お仕事紹介の事前打ち合わせがあってもよかった。

◇初めて部会に参加。動画を見せてもらった。引き込まれる内容だった。お仕事紹介も見やすかった。

◇監督をされた先生から公開講座のことはとてもよかったと伺っていた。

◇寸劇の出演者としてめっちゃ楽しかった。動画視聴後アンケートにも記載したが、お仕事紹介は講師の話だけでなく、シェーマーなどで説明画像が並列していると一般の方に分かりやすい。

【動画配信について】

◇視聴していただいた動画は、協議会事務局の阿武町担当者が年末年始を編集作業に費

やして完成させた力作。2月末に訂正箇所を確認するための視聴を経て、その後も作業を行った。スーパーインポーズ（字幕）、スローモーション、モノトーン画像への転換など、センスのよい、質の高い作品に仕上がっている。

◇動画を公開するにあたって、再編集した方がよいところがあれば。お仕事紹介の職種ごと、チャプターを分けることなどは比較的簡単にできると聞いている。

◇動画のリメイクにそれほど時間がかからなければよいが、時間がかかりそうだったら、まずは公開することを優先させてはどうか。公開後でリメイク版に差し換えることもできる。

◇事務局の阿武町担当者の本業との関係もあるので、再編集作業の時間のかかり具合によって、ホームページ上での動画公開の段取りを決めることとしたい。

【劇団の今後について】

◇来年度以降、何らかのかたちで活動をできればよい。医療・介護等の専門職がここまでやれたのは貴重なこと。無理強いしないで、やってもよいと希望する方を募って活動を続けてはどうか。

◇チラシに劇団ケアネットはぎ初回公演「たかあきおじいちゃんの…」と銘打っている。ので、やはり「たかあきおじいちゃん」でシリーズ化した方がよい。

◇奥さんの介護など、ご夫婦バージョンをやってはどうか。

◇いろんな方に声をかけて、いろんな職種を巻き込んでどうか。

◇「たかあきおじいちゃん」シリーズで、次は認知症をとり上げるのはどうか。

◇各団体から推薦していただくなど、劇団をもっと大きくしてはどうか。

◇公開講座後、一般の方からも声をかけられた。巻き込んでよければ、一般の方にも声をかけたいが、いかが。

◇初回公演で素晴らしい寸劇というか創作劇ができ、一気にハードルが上がったが、出演者がへこたれておられず大変心強い。ただし、負担がかなり大きいと思われるので、朗読劇など比較的手がけやすいものも検討してみてはどうか。寸劇以外でも伝える方法があるのではないかな。

◇初回公演の内容自体を、阿武町町民センターの音響・照明設備等が整っている文化ホールでやってほしいとの声もあった。

◇劇団を今後どうするかは大事であるが、まずは初回公演の動画を活用することに力を注いでみてはどうか。社協のサロンなどでコンテンツとして使用するなど。

◇動画の活用については、DVDなどにコピーして、健康教室などで活用することができないかな。

◇各地域の集まりに動画を活用していく上では、AV 機器やインターネット環境が整っていないところが多いので、例えばDVDの再生装置、液晶プロジェクター、スクリーンなどを用意して出かけていくことも考えた方がよい。

◇今後どう展開するかは、本日の話し合いを持ち帰っていただいて、いろんなアイデアを検討していただければ。事務局でアンケートを用意し、事前に皆さんに回答していただき、その結果をもとに再度、部会を開催してはどうか。

- R08.03.05 第13回成育在宅医療 WEB 研修会（3月26日オンライン開催）のお知らせ
（医療的ケア児の看護支援の実践からの課題 / 小児訪問看護の実際 ～看護師とリハビリスタッフとの協働～ / 医療的ケア児への看護支援の実際～訪問看護・小学校・総合支援学校での支援経験を経て～）

【情報提供件数】

項 目	ガイドブック 更新	研 修	啓 発	そ の 他
件 数	3	10	4	1
合 計	18			

※R07.10.03 に研修と啓発のカテゴリー2 つについて同時にお知らせしている。

Ⅱ. 会 議 関 係

- R07.04.09 **事務局会議** 内容は、令和7年度事業計画について、協議会活動について、研修・啓発部会長の後任（綿貫副会長が兼務）、構築部会担当事務局の見直し、「北浦食形態マップ」関連、「巡回診療 なご診療所」の状況についてなど
- R07.05.08 **事務局会議** 医師会と萩市で協議。内容は、構築部会開催に係る打ち合わせ
- R07.05.23 **事務局会議** 医師会と萩市で協議。内容は、在宅医療提供体制充実支援事業の目的・趣旨等に照らした部会活動の在り方についてなど
- R07.05.28 **事務局会議** 副会長・構築部会長が出席。内容は、構築部会開催に係る打ち合わせ報告、令和7年度在宅医療提供体制充実支援事業について、「萩圏域 医療・介護・福祉資源ガイドブック」「同資源ガイド」の情報更新について、協議会（全体会議）の開催についてなど
- R07.07.08 **事務局会議** 内容は、令和6年度事業報告（案）の確認、3者会議・協議会の開催、各部会の懸案事項についてなど
- R07.08.19 **3者会議** 内容は、「在宅医療に必要な連携を担う拠点における在宅医療体制整備に関する実態調査」への対応、令和7年度の協議会・各部会活動について、阿武町国民健康保険あぶ診療所を9月1日（月）に開設など
- R07.09.16 **山口県萩健康福祉センター（萩健福）と事務局が協議** 内容は、萩市ホームページの「動画で解説 個人防護具の正しい着脱」（R05.02.21 掲載）のうち、

- PPE（個人防護具）着脱手順を説明したリーフレットの改訂に関すること
- R07.09.17 **萩市民病院・都志見病院・萩健福・萩市医師会・萩市が協議** 内容は、「令和7年度第2回多職種連携感染症対策研修会」の開催について
- R07.10.02 **事務局会議** 萩市と阿武町で協議。内容は、研修・啓発部会をはじめとする協議会活動の進め方についてなど
- R07.10.21 **事務局会議** 萩市と阿武町で協議。内容は、研修・啓発部会をはじめとする協議会活動の進め方についてなど
- R07.11.20 **事務局会議** 萩市と阿武町で協議。内容は研修・啓発部会の開催について
- R07.12.01 **事務局会議** 副会長兼研修・啓発部会長が出席。内容は、協議会と各部会の在り方と今後の活動についてなど
- R07.12.15 **萩薬剤師会と萩市が協議** 内容は、地域支援体制加算の算定要件となる「地域の多職種と連携する会議」への薬剤師の参画について、薬剤師会の電子処方箋への対応状況の「萩圏域 医療・介護・福祉資源ガイドブック」等への掲載についてなど
- R07.12.17 **研修・啓発部会** 内容は、萩市・阿武町住民公開講座「みんなで考える在宅医療・介護」（R06.11.30 開催）の振り返りについて、PPE（個人防護具）着脱リーフレット改訂版についてなど
- R07.12.23 **事務局会議** 連携部会長と萩市で協議。内容は、連携部会開催に向けて「在宅医療に必要な連携を担う拠点（連携拠点）」に求められる取組（多職種連携会議の設置など）、構築部会との合同開催についてなど
- R08.01.29 **事務局会議** 内容は、協議会活動、構築部会、連携部会、研修・啓発部会についてなど
- R08.03.03 **研修・啓発部会** 内容は住民啓発・多職種連携研修会など来年度の取組について

【会議開催回数】

項 目 3	3 者会議	事務局会議	部 会	そ の 他
開催回数	1	11	2	3
合 計	17			

※協議会の部会のうち、在宅医療体制構築部会は「構築部会」、多職種連携推進部会は「連携部会」、在宅医療研修・普及啓発部会は「研修・啓発部会」と略称を用いて表記している。

Ⅲ. 研 修・啓 発

令和 7 年度 第 1 回 多職種連携感染症対策研修会

- 開催日時 令和 7 年 8 月 9 日（土）15：00～17：10（災害対応のため 16：30 までに短縮）
- 開催概要 医療機関における院内感染防止対策や、地域全体での連携体制を評価する感染対策向上加算もしくは外来感染対策向上加算に基づくもの。高齢者施設等感染対策向上加算にかかる年 1 回の研修または訓練にも該当
- 主 催 萩市民病院 都志見病院 山口県萩環境保健所
- 共 催 ケアネットはぎ（萩市医師会・萩市・阿武町）
- 場 所 萩市総合福祉センター1 階 多目的ホール
- 対 象 者 萩市及び阿武町の保健・医療・福祉・介護現場で働く全ての関係者
- 内 容
 - 行政説明「近年の萩圏域の感染症の動向」 萩環境保健所
 - 講演「災害発生時における避難所等での感染症対策について」
都志見病院 日本 DMAT 隊員
感染管理認定特定看護師教育課程修了者 石飛 光太郎
 - 特別講演「感染症対策の基本は標準予防策
～標準予防策で患者さんや利用者さん、自分自身を守りましょう～」
長門総合病院 感染管理認定看護師 看護師長 松田 純一
 - 感染症危機対応力強化事業案内・コンサルテーション案内
萩市民病院 感染管理認定看護師 大谷 剛

- ◇8 月 9 日（土）15：00～16：30 の間、上記枠囲いの研修会を開催。参加申込は 102 名。
- ◇当日 15：00 に萩市全域に「警戒レベル 3 高齢者等避難」が発令され、総合福祉センターを含め、市内 19 箇所に避難所が開設されたため、17：10 までの予定だった研修会の開催時間を 16：30 に短縮。

令和7年度 第2回 多職種連携感染症対策研修会

- 開催日時 令和7年12月4日（木）19：00～20：30
- 主催 萩市民病院 都志見病院 山口県萩環境保健所
- 共催 ケアネットはぎ（萩市医師会・萩市・阿武町）
- 場所 萩市地域医療連携支援センター1階 大会議室
- 対象者 萩市及び阿武町の感染対策向上加算もしくは外来感染対策向上加算を算定している医療機関の関係者

■内 容

1. 行政説明（萩環境保健所）

- ◇山口県の感染症の発生状況等について
- ◇薬剤耐性菌と今後の動向
- ◇行政の感染症対策への取り組み

2. 感染症対策に関する机上演習

《麻しんが発生した際の初動対応の確立等を想定したグループワーク》

- ◇設問1の対応（受診時の対応方針）
- ◇設問2の対応（入院後の対策）
- ◇設問3の対応（麻しん陽性判明後の対策/院内対策）

※机上訓練後に大谷 ICN（感染管理認定看護師）より麻しん対応の実例を紹介

3. 防護具の着脱訓練

- ◇ケアネットはぎで作成した PPE 着脱リーフレット改訂版を配付し、PPE 着脱を実演しながら、改正点を説明。

4. 質疑応答

◇12月4日（木）19：00～20：30の間、上記枠囲いの研修会を開催。参加者は医療機関28名、事務局17名の総勢45名。

◇研修会後のアンケート結果によると「行政説明」「机上演習（グループワーク）」「防護具の着脱訓練」のいずれも満足度は「大変良かった」「良かった」をあわせて94.4%という結果。開催の時間帯については「平日の夕～夜」を希望する参加者が殆どであった。



机上訓練（グループワーク）



防護具の着脱訓練

- ◇「防護具の着脱訓練」で使用した PPE 着脱リーフレット改訂版については、令和 7 年 10 月 30 日に萩市ホームページに掲載。リーフレットはグリーンゾーン、イエローゾーン、レッドゾーン（2 種類）の計 4 種類で PDF ファイルをダウンロードできる。

萩市
Hagi City Website

文字の大きさ 拡大 標準 背景色を変える 白 黒 青

●すべて ○ページ ○PDF 検索

はじめての方へ Foreign language サイトマップ お問い合わせ

短編・譯名でさがす カレンダーでさがす

ホーム > 組織一覧（部署名をクリックで詳細） > 高齢者支援課 > ケアネットはぎから『個人防護具の正しい着脱』配信のお知らせ

ケアネットはぎから『個人防護具の正しい着脱』配信のお知らせ

印刷用ページを表示する 掲載日：2025年10月30日更新

感染症対策として医療・介護・障がい福祉施設等でご活用いただけるリーフレットを制作しました。

日頃からの備えとして職員研修等で繰り返しご活用いただき、悩むことなく個人防護具を着脱できるよう、正しい取り扱いを習慣化することが目的です。

なお、この資料は令和 7 年 10 月 ● 日時点（新型コロナの 5 類移行後）で制作しています。感染状況に併せて最新の情報をご確認ください。

個人防護具の着脱手順【グリーンゾーン】



グリーンゾーン [PDFファイル/93KB]

サージカルマスクに加え、次の対策を加えるようにします

感染性の物が手に触れる可能性がある場合 → 手袋を装着



感染性の物が衣服に飛び散る可能性がある場合 → ガウン



感染性の物が目に飛び散る可能性がある場合 → フェイスシールド or ゴーグル



感染性の物とは：汗以外の体液（唾液、鼻汁、喀痰、尿、便、膿水、胸水、涙、母乳など）、傷のある皮膚、粘膜

個人防護具の着脱手順【イエローゾーン】



■個人防護具の正しい着脱

<https://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/96/h52673.html>

IV. 課題の抽出と対応策の検討

協議会として対応策を検討すべき事項のうち、懸案事項として令和7年度に持ち越していた課題は以下のとおり。

《令和7年度に持ち越した課題》

① 圏域の自主規制ルールの標準化に向けた取組を含め新興感染症等への対応の強化

② 関係機関との情報共有・情報連携の仕組みづくりの推進

③ 在宅医療に必要な連携を担う拠点としての活動の見える化

今年度に持ち越した課題のうち、①については、第8次山口県保健医療計画の5疾病6事業に、「新興感染症発生・まん延時における医療」として萩保健医療圏における取組が求められているので、協議会としても圏域関係者に必要な研修等を開催できるよう関与を深めるとともに、感染状況を注視し、必要に応じて検討を再開することとしている。

②については、医療情報基盤や介護情報基盤といった領域別の基盤を統合する全国医療情報プラットフォームの構築など、国を挙げての取組が進展する中、圏域内で地域の実情に応じた固有の情報を共有・連携する仕組みづくりが有用とされている。萩市ホームページのサブサイトにおいて、「萩圏域 医療・介護・福祉資源ガイド」などを通じて協議会の情報を圏域関係者・住民に提供するとともに、在宅医療の現場においてはコミュニケーションツールを活用した適時適切な情報連携の自主的運用が始まっているので、これらの取組をモデルとして、さらに進化させていきたいと考えている。

■萩圏域 医療・介護・福祉資源ガイド

<https://www.city.hagi.lg.jp/site/keanetto/h34439.html>

③については、第8次山口県保健医療計画に、協議会が「在宅医療に必要な連携を担う拠点」として位置付けられているので、国の「在宅医療に必要な連携を担う拠点の整備・運用に関するガイドブック」等を参考にしながら、圏域内の在宅療養支援病院、在宅療養支援診療所、在宅療養後方支援病院、訪問看護ステーションなど「在宅医療において積極的役割を担う医療機関」と協働し、中長期的視野で具体的な活動を顕在化していくことを目指したい。

《当 面 の 課 題》

① 圏域の自主規制ルールの標準化に向けた取組を含め新興感染症等への対応の強化

② 関係機関との情報共有・情報連携の仕組みづくりの推進

③ 在宅医療に必要な連携を担う拠点としての活動の見える化

協議会としては、引き続き令和 8 年度においても、上記 3 点を当面の課題として取組を継続していくこととする。